人と組織の 新。論。点

CATALYS

最新の情報や現代の風刺を取り込み、古典の魅力を広げる大蔵流狂言師

変化を少しずつ 消化し伝統を重ねる

狂言の作品は「古典 | と「新作 | に分けられます。古典作品という と古い様式や台詞など、難解なイ メージを持たれる方が多いです が、私は古いという意味ではなく、 現在まで受け継がれて「スタンダ ード」になった作品だと捉えてい ます。新作はその名の通り新しく 書かれた作品のこと。『濯ぎ川』 や『彦一ばなし』という作品は、 戦後に書かれたもので古典に比べ れば歴史が浅く、新作と呼ばれて いますが、茂山家で頻繁に上演し ているので、私はスタンダードと 呼んでもいいと思います。

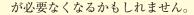
何百人もの手を経て 新作はスタンダードへ

私も『だんご聟』や『都わたり』 など、いくつか新作の脚本を手掛 けています。2005年には、「愛・ 地球博」で『流れ星-X』という 作品を初上演しました。今よりも さらに温暖化が進んだ2055年が舞 台です。地球から移住できる星を 探して宇宙の流れものになった地 球人が、温暖化を回避する装置「ホ

シヒエルーを見つけ、なんとか地 球に持ち帰るため、宇宙人とシュ ーティングゲームで戦う物語で す。未来と宇宙をイメージし、キ ラキラした衣装や、小道具に携帯 電話も使いました。「やり過ぎち ゃうんかな?」とも思いましたが、 好評を得て、多くの環境団体から 上演要請を受けています。

これからもっと新作を書きたい と思いますが、自分の名前が作品 につかなくていいと思っていま す。これは著作権の問題で、現状 は著作権料を支払わないと他の人 が書いた新作を自由に演じられま せん。ですが様々な人の手によっ て演じられないと、作品は書いた 人間だけの世界観に留まってしま う。新作は、何十人、何百人の手 に触れられることで、少しずつ変 化し研ぎ澄まされて、スタンダー ドとなるのです。

私が書いた新作がスタンダード になるかどうか、次世代の狂言師 が受け継いでくれるかは、わかり ません。ひょっとすると「ホシヒ エルーが開発されて環境問題がな くなり、地球環境を危惧する風刺



狂言の変化、進化を 100年の視点で見守る

室町時代に狂言が発祥してから 650年。多くの作品が生まれ、今 も演じられるものもあれば、消え ていったものも数多くあります。 狂言は古典芸能ですが、何一つ変 わることなく代々、型や台詞を受 け継ぎ、古典を残すことに専念し てきたわけではありません。時代 の流れに合わせ、少しずつ変化す る台詞や型、新しい演出などを消 化し受け入れてきました。私たち はその流れを無理に止めてはいけ ないと思うのです。

それぞれの時代の狂言師がその 時の環境や風俗を取り入れて演 じ、その次の世代の狂言師が、そ の変化を少しずつ受け入れ消化す ることが大切。微妙な変化や進化 の積み重ねが伝統になるのです。 狂言をこれからも伝承し続ける秘 訣は、変化を急ごうとせず、100 年単位の長い視点で物事を捉える ことだと思います。

文/牛久珠理(編集部)

PROFILE しげやま・せんざぶろう

大蔵流狂言師。1964年生まれ。四世茂山千作および三世茂山千作、叔父二世茂山千之丞に師事。67年「業平餅」の童で初舞台。99年京都府文化奨励賞受賞。「TOPPA!」 (05年終了)を主宰する他、海外公演、ラジオのパーソナリティー、ミュージカル・オペラの演出・出演など幅広く活躍する。